

活動報告書

報告者氏名：水野吉丈

所属：東京都立江戸川特別支援学校

記録日：2013年 2月22日

【対象児（群）の情報】

- ・学年 高等部2年
- ・障害名 声門下完全閉塞（声門下肉芽術後）
- ・障害と困難の内容

未熟児（300グラム）で出生。気道を塞ぐ肉芽のために呼吸を改善する必要があり、3歳の時、気管切開を行い常時カニューレを装着している。そのために、声を出すことができなくなった。常時、痰吸引及び吸入が必要。

就学時は知的障害の特別支援学校に入学。当時はオリジナルの手まねを使って簡単なコミュニケーションを行っていた。保護者はマカトンサインなどを取り入れることにも取り組んだが定着しなかった。高等部からは医療的ケアの問題から本校に進学した。そこで、本人の困難を克服する手段としてiPadをVOCAとして活用することを考えて、魔法のじゅうたんプロジェクトに応募することになった。

【活動目的】

- ・当初のねらい

iPadを利用して、本人が文字を入力し気持ちを表現すること。

- ・実施期間

平成24年4月より平成24年2月まで

- ・実施者 保護者（母親） 星野美由紀（担任）

- ・実施者と対象児の関係

家庭では保護者が、学校では担任が個別指導の時間などを利用して取り組んだ。

家庭では、毎日書いている一行日記の文をiPadに入力している。

学校では各授業の時間や学年ホームルームの時間、休み時間などにも利用した。

【活動内容と対象児（群）の変化】

・対象児（群）の事前の状況

保護者や教員の言葉がけに、表情や手まねで応えることが主であった。なかなか本人の気持ちが伝わらなかったり、読み取りきれなかったりしたこともあった。

・活動の具体的内容

アプリ「流暢トーク」を利用して、気持ちを言葉にする学習を取り組んだ。朝の会や授業での発言だけではなく、日常生活の場面でも活用できるように取り組んだ。

・対象児（群）の事後の変化

最初は教員の支援をうけながら、あいさつなどの文字を入れていたが、徐々に自分で入れたいことを入れるようになってきた。特に好きなテレビ番組がある日は「ポケモンみてね」（友達にも同じ番組を見てほしい）と、入力して他の生徒に聞かせるような場面が増えてきている。校内実習の買い物をした時は、「きんちゃくをください」と入力して持参し、音声を出して友達に伝え、買うことができた。とてもうれしそうだった。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

Cさんが伝えたい言葉を主体的に入力できるようになってきたが、今は手まねなどで伝えようとしているようである。今後は、いろいろな場面でいろいろな言葉を伝え、自分が楽になることが理解できるように工夫したい。

・エビデンス（具体的数値など）

iPad導入前と導入後では、他の生徒に向かって気持ちを伝えようとする場面が増えてきている。

・その他エピソード（画像などを含めて）



集中して入力できる時間が増えてきている。アプリの利用にも慣れてきているので、保護者は継続的な指導を望んでいるので、継続研究を申請した。
画像は買い物学習で活用しているところである。